
電車で携帯電話を使うと他の客の迷惑になる

頼白井

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電車で携帯電話を使うと他の客の迷惑になる

【Nコード】

N6167A

【作者名】

頼白井

【あらすじ】

ユウジが電車でメル友とメールをしていると、隣のシートの子高生とメールのタイピングがピタリ！相手はこの子？それとも…？とりあえず、車内での携帯電話、PHSの使用は、他の客の迷惑となるので、使用を控えた方がいいかもしれない話。

電車を高校への通学に使っているユウジは、いつも通り七人掛けシートの端に座ると、制服の内ポケットから携帯電話を取り出した。最近出会い系サイトで知り合った、同じく高校生のメル友、ミサトとメールのやりとりをするためだ。

数度目のメールを返信したとき、ユウジが送受信するタイミングと、ドアを挟んで隣の女子高生が携帯電話を出し入れするタイミングが似通っていることに気付いた。

（まさかこの子だったりして）

女子高生のうつすらと茶色に染めた髪は、綺麗なツヤが出るようストリートにしてあり、ぱっちりとした目は、ユウジの好みだった。（この子がミサトだったら嬉しいけど……そんなわけないよな）

最初は半信半疑だったが、その後も送受信と出し入れのタイミングが合っている。

まさかとは思いつつも、確かめずにはいられない。かといって、偶然タイミングが合っているだけだとしたら非常に恥ずかしいので、ユウジはそれとなく質問を試みることにした。

隣の女子高生の携帯電話についているストラップや、カバンに書かれた落書きから、“ミッドナイト・ナイツ”という、いま中高生の間で流行っているロックバンドのファンだということは想像できる。つまり、好きなアーティストを訊けばいい、という訳だ。

『好きなアーティストっている？』

ユウジがそのメールを送ると、女子高生は制服のポケットから携帯電話を取り出し、少しいじって、そしてしまう。

ほどなくユウジの携帯電話にメールが受信され、バイブレータが彼に知らせた。

『ミッドナイト・ナイツだよ』

予想通りの答え。意を決して『ひょっとして、いま電車に乗って

ない?』と訊くと『そうだよ』との返信。

いよいよ確信を持ったユウジは、『隣のシートに座ってる子と、ミサトの返信のタイミングが合ってるんだ』とメールを送る。

『もしかして隣にユウジがいるの? そーいえば、隣の子、ケータイのタイミング合ってるよ』

そのメールを読んで、ユウジは女子高生に声をかけた。

「ミサトさん?」

偶然同じ電車に乗って、隣に座っていたという奇跡から、素敵な出会いになるだろう、と、期待していたが……。

「はあ? あんた誰?」

着信したミサトからのメールには『ちがったよー』と書かれていた。

種を明かせばなんてことはない。最初は偶然でも、タイミングが一回合ってしまったえば、多少の誤差はあれど、スムーズなやりとりなら合ったままになる。

好きなアーティストも、“中高生に流行りのロックバンド”が好きな中高生は山ほどいるので、判断材料にはならない。

そして、ユウジもミサトも高校生なので、同じ時間に電車に乗っていても、不思議ではない。

つまり、ユウジは特徴とは言えない特徴で、本人と判断してしまったのだ。

ホンモノのミサトは、ぱっちりとした目ではあっても、ツインテールの髪型や輪郭など、まるで別人だが……ユウジにとっては、その女子高生よりも魅力的に感じた。

なぜミサトの外見をユウジが知っているのかというと、この一件の後、二度とこのような事が起きないように、お互い写真を交換し、次の休日にデートをする約束をしたからに他ならない。

（後書き）

こんにちは「頼白井」と書いて「カルカロドン」と読みます。由来はホオジロザメの学名です。ジョーズを観ましょうね。

という訳で、「電車で携帯電話を使うと他の客の迷惑になる」をお読みいただき、まことにありがとうございます。

通学や通勤中、バスとか電車の中でチョロっと読める長さが、ちょうどいい感じですね。

お楽しみいただけたでしょうか？

それでは、またお会いできるように……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6167a/>

電車で携帯電話を使うと他の客の迷惑になる

2010年12月8日02時46分発行